

編 集 後 記

昭和の時代から平成の時代に移り、昭和史が回顧されるようになった。激動の時代であったが、流通の分野においても「暗黒大陸」に解明のメスが入れられ、合理化・近代化がすすめられたことは、戦後の昭和経済史に記録される足跡であった。

昭和時代から平成時代に引き続き国際化、情報化、高齢化の社会がすすむことになる。需要者ニーズの高度化・多様化に対応し、いかに流通活動を運営すべきかというソフト面の方策、つまり流通活動の規制緩和、人材の育成、中高年層・女子労働力の活用、戦略的展開などの諸問題に直面している。

陸運業者は経営環境の変化に対処するために経営体質の改善とともに、地域別特性、事業規模別展開の方向など、それぞれのもつ諸条件に応じた物流サービスを選択しなければならなくなっている。港湾運送業者も貿易構造、規制緩和、総合運送取扱人法制定の動きなど、その環境が大きく変化し、市場競争の試練のなかで経営体制の再構築が求められている。

このように時代の要請する研究テーマとして本号は、国際輸送と港湾運送事業、国際宅配便の法制度、トラック事業の規制緩和、さらに物流戦略などの諸問題を取り上げた次第である。いささかなりとも資するところがあるとすれば、望外のよろこびとするところである。

(1989年4月、山野辺)